

がん看護専門看護師・ がん化学療法・がん放射線療法看護認定看護師の 養成・就業状況について

がん診療提供体制のあり方に関する検討会

構成員 松月みどり

（公益社団法人日本看護協会 常任理事）



公益社団法人 **日本看護協会**

Japanese Nursing Association

がん化学療法・放射線療法について専門的知識に基づいた 水準の高い看護を提供できる看護師の数

▶ **がん看護専門看護師**

1996年から資格認定を開始

432名

(2013.5時点)

【分野の特徴】

がん患者の身体的・精神的な苦痛を理解し、患者やその家族に対して
QOL(生活の質)の視点に立った水準の高い看護を提供する

▶ **がん化学療法看護認定看護師**

2001年から資格認定を開始

1,005名

(2013.5時点)

【知識と技術】

- ・がん化学療法薬の安全な取り扱いと適切な投与管理
- ・副作用症状の緩和およびセルフケア支援

▶ **がん放射線療法看護認定看護師**

2010年から資格認定を開始

103名

(2013.5時点)

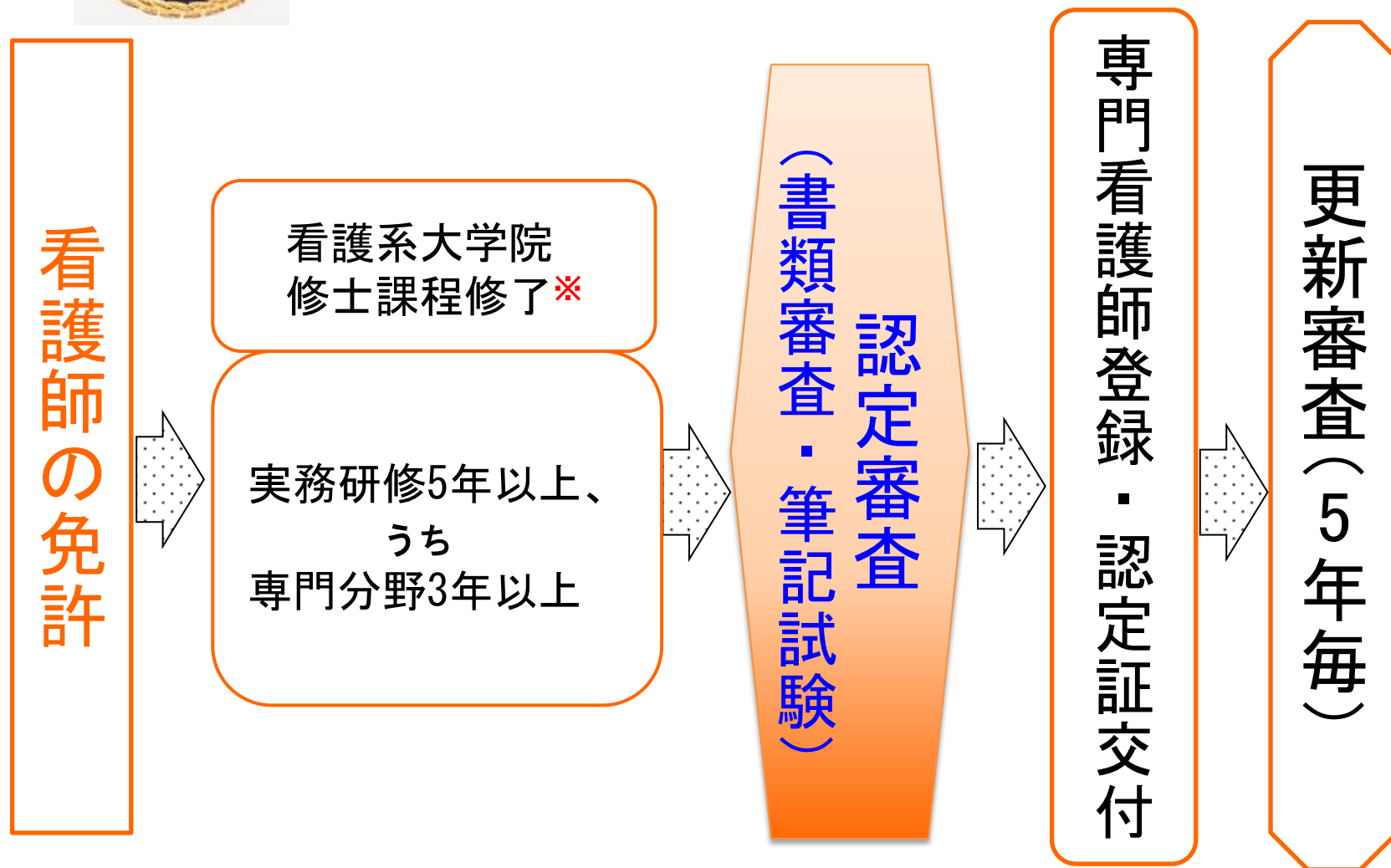
【知識と技術】

- ・副作用症状の予防、緩和およびセルフケア支援
- ・安全・安楽な治療環境の提供

出典：公益社団法人日本看護協会 認定部



専門看護師になるには



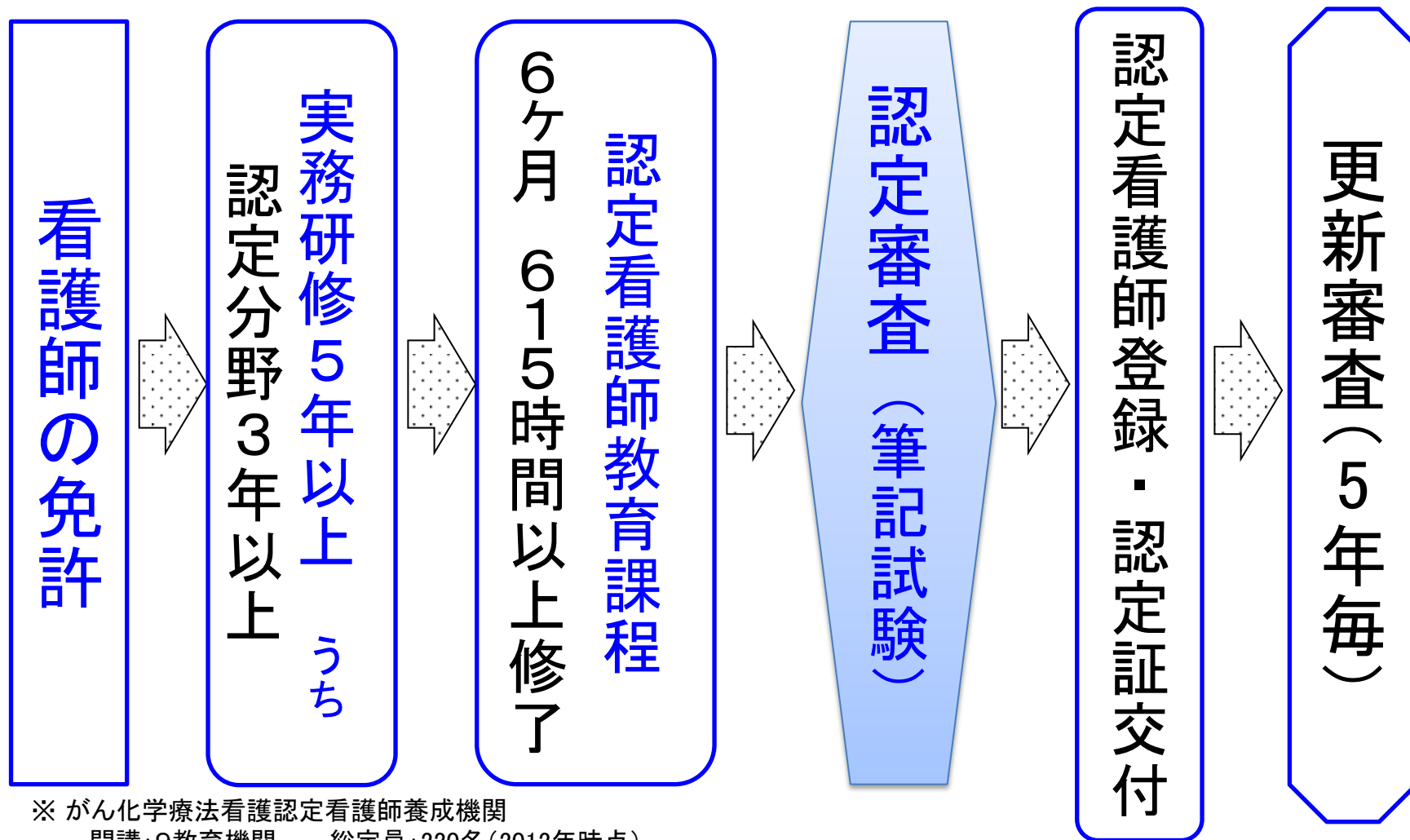
※日本看護系大学協議会が定める専門看護師教育課程基準の所定の単位(26単位又は38単位)を取得のこと

※認定された専門看護師教育課程: 76大学院195課程、うち「がん看護専門看護師」は大学院52カ所(2012年5月現在)

出典: 公益社団法人日本看護協会 認定部



認定看護師になるには



※ がん化学療法看護認定看護師養成機関

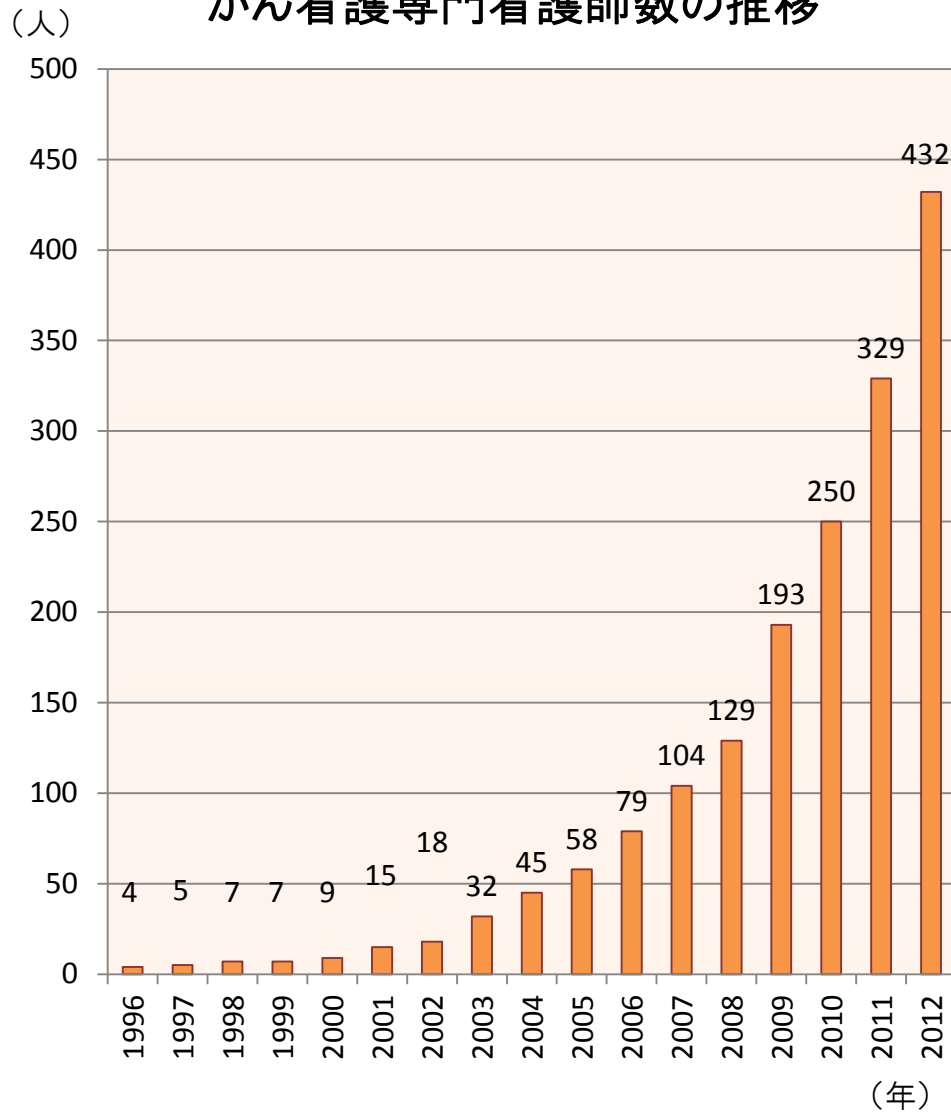
開講: 9教育機関 総定員: 220名 (2012年時点)

がん放射線療法看護認定看護師養成機関

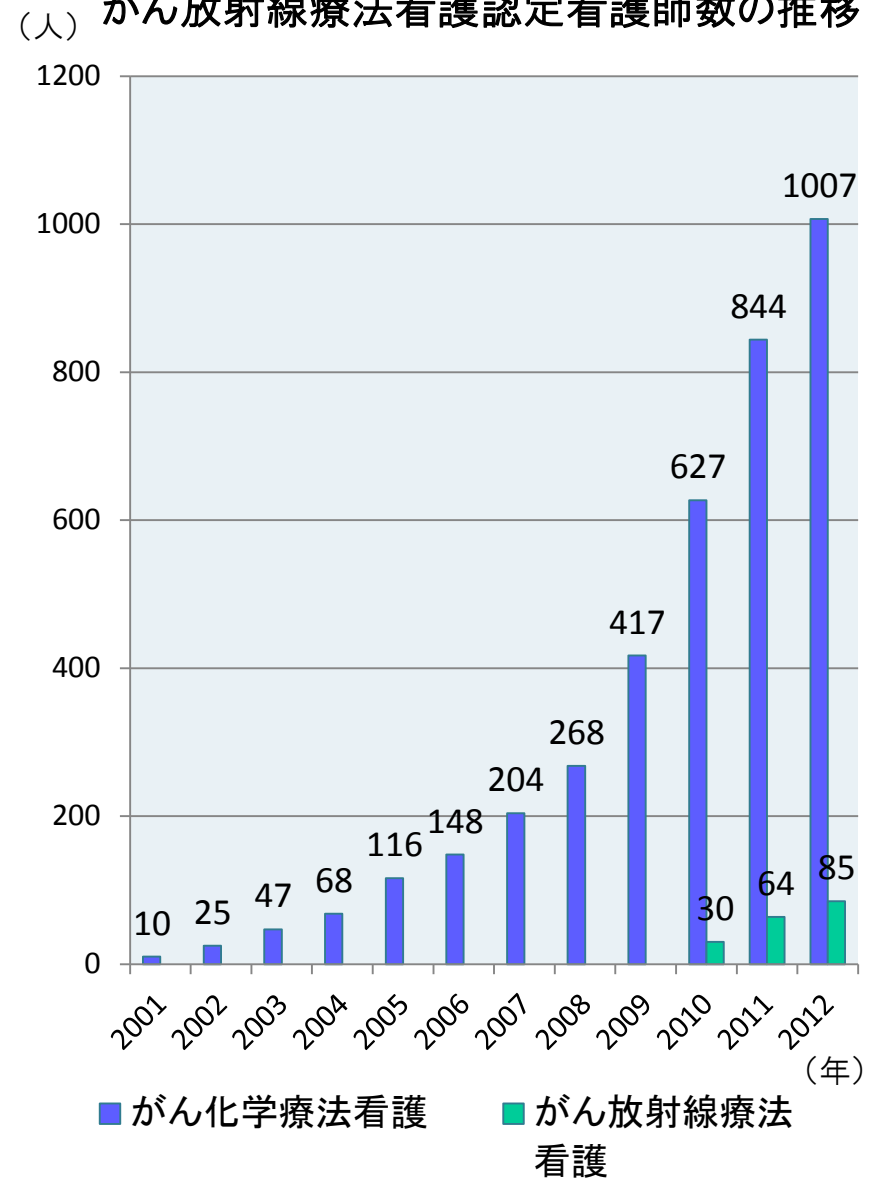
開講: 3教育機関 総定員: 80名 (2012年時点)

出典: 公益社団法人日本看護協会 認定部

がん看護専門看護師数の推移



がん化学療法看護、
がん放射線療法看護認定看護師数の推移



出典：公益社団法人日本看護協会 認定部

がん看護専門看護師の就業状況

がん看護専門看護師総数

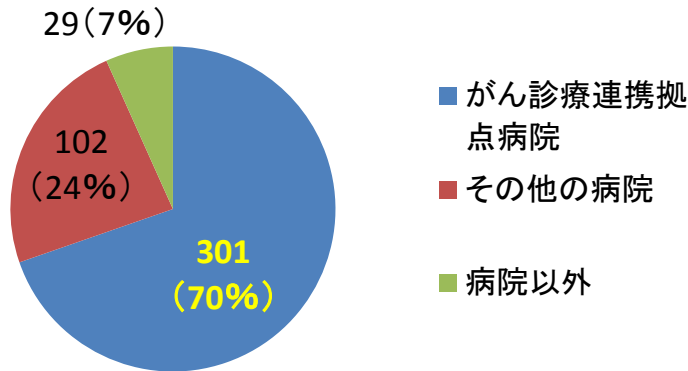
432人

2013.05時点

がん看護専門看護師の就業場所(人)

n=432

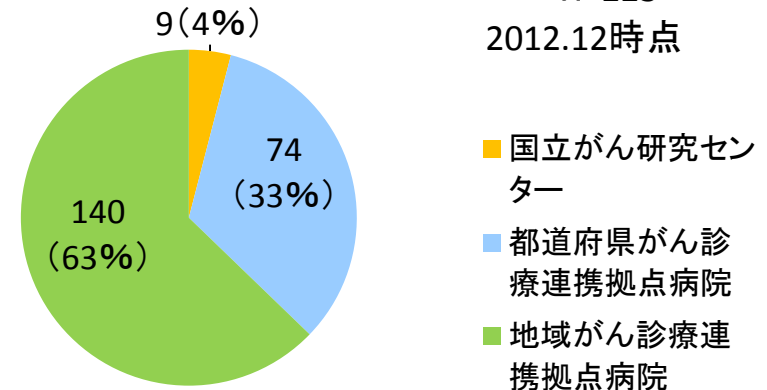
2013.05時点



がん診療連携拠点病院に就業する
がん看護専門看護師就業者割合(人)

n=223

2012.12時点



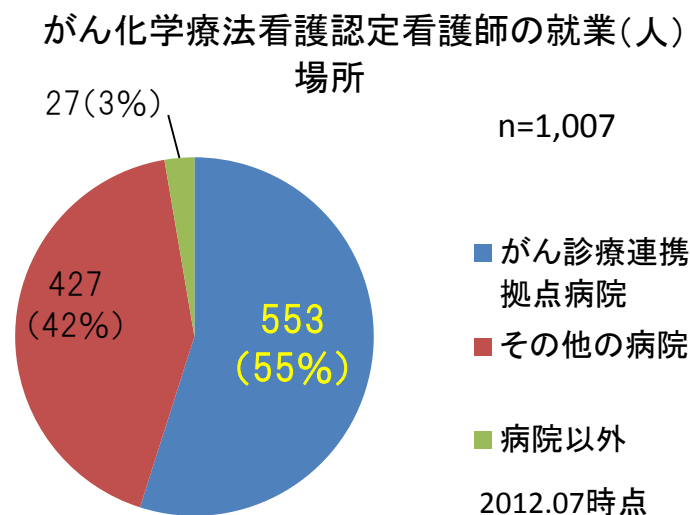
○がん看護専門看護師は総数432人(2013年5月時点)
このうち7割(301人)が、がん診療連携拠点病院で就業している

がん化学療法看護認定看護師の就業状況

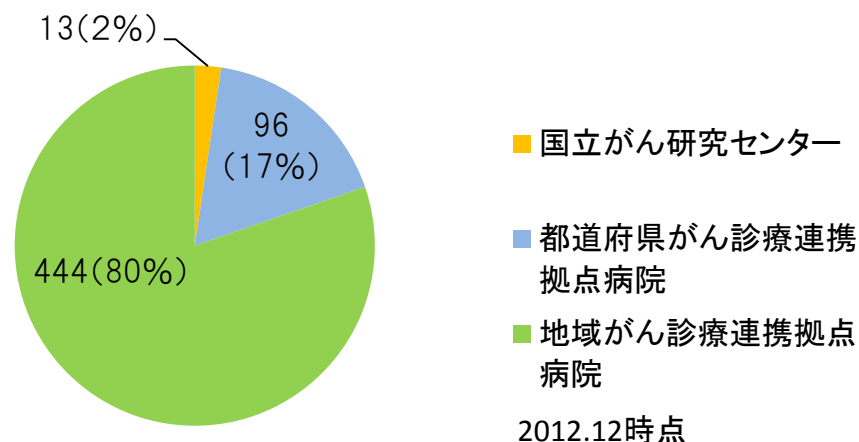
がん化学療法看護認定看護師総数

1,007人

2012.07時点



がん診療連携拠点病院に就業する
がん化学療法看護認定看護師の割合(人)
n=553



○がん化学療法看護認定看護師は総数1,007人(2012年7月時点)

○がん診療連携拠点病院に就業する者は553人(55%)

内訳; 地域がん拠点病院444人(80%)、国立がん研究センター13人(2%)、都道府県がん拠点病院96人(17%)

○平均就業者数は、国立がんセンター; 6.5人、都道府県がん拠点病院; 1.8人、地域がん拠点病院; 1.5人である

※ 2012.12時点で、がん化学療法看護認定看護師を雇用していない地域がん診療連携拠点病院が、全国に66病院

がん放射線療法看護認定看護師の就業状況

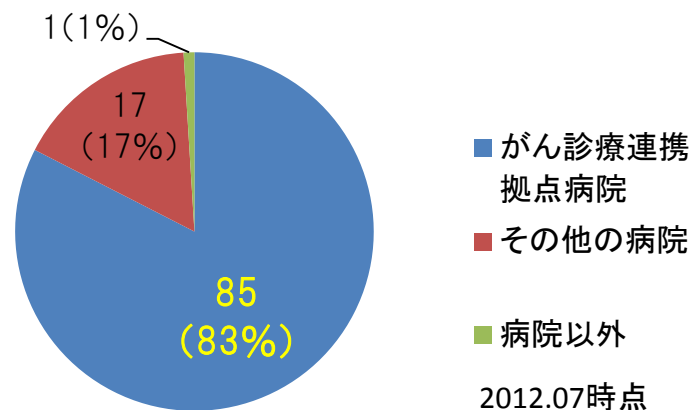
がん放射線療法看護認定看護師総数

103人

2012.07時点

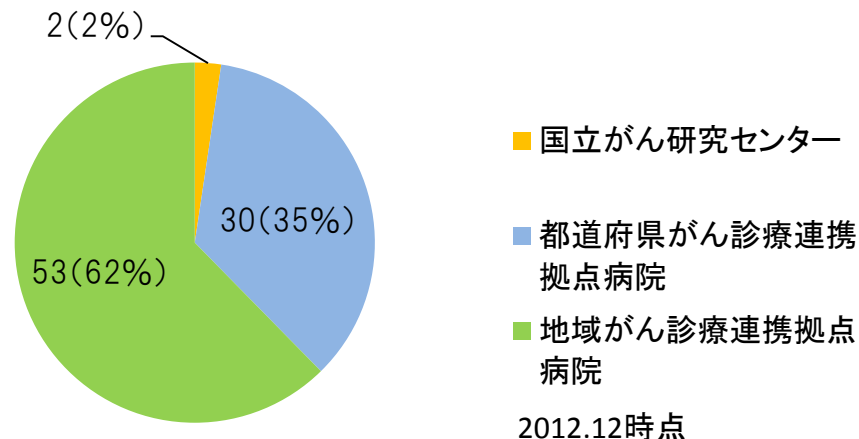
がん放射線療法看護認定看護師の
就業場所

(人)
n=103



がん診療連携拠点病院に就業する
がん放射線療法看護認定看護師の割合(人)

n=85



○がん放射線療法看護認定看護師は総数103人(2012年7月時点)

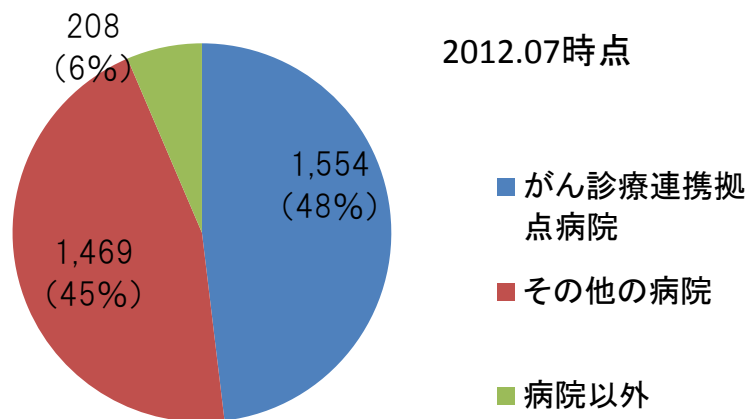
○このうち85人(83%)が、がん診療連携拠点病院に就業している

(参考) がん看護領域の認定看護師の就業状況

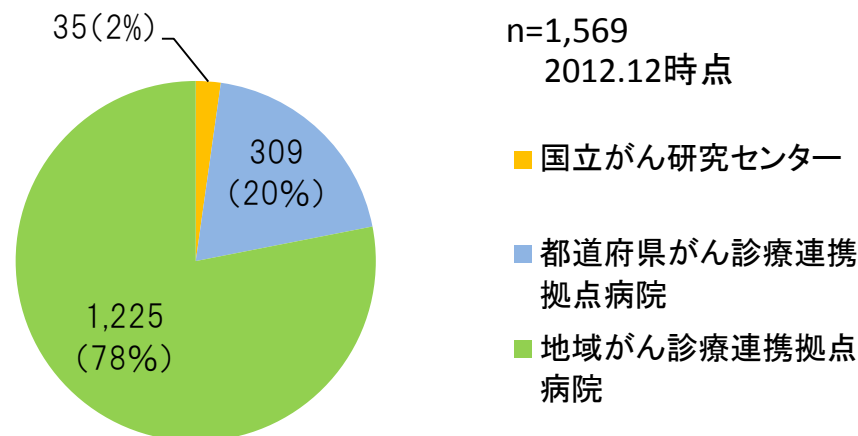
総数(人) 2012.07時点

緩和ケア	1,295
がん化学療法	1,007
がん性疼痛	638
乳がん看護	188
がん放射線看護	103
総数	3,231

がん看護領域の認定看護師の就業場所
(人)



がん診療連携拠点病院に就業する
がん看護領域の認定看護師の割合(人)



○がん看護領域の認定看護師は総数3,231人(2012.07時点)
○3,231人中、1,554人(48%)はがん診療連携拠点病院で就業している(2012.07時点)

【内訳】(2012.12時点)

国立がん研究センター...35人(2%)
都道府県がん診療連携拠点病院...309人(20%)
地域がん診療連携拠点病院...1,225人(78%)

※ がん看護領域の認定看護師を雇用していないがん拠点病院は、全国に7ヶ所

参考資料

- ・専攻必須単位；24単位、
- ・CNS共通科目；14単位以上 計38単位（2012年度～） ※2020年まで26単位で認証可能

（教育目標）

1. がんに関する専門的知識を深め、**エビデンスに基づいた確かな臨床判断**を行うことができる
2. **熟練した高度なケア技術とキュアの知識を用いて**がん患者および家族に対して**看護を実践**することができる。
3. **社会に対し、がんの予防および早期発見のための教育・啓発および相談活動**ができる。
4. 医療・看護職者に対して、**がん看護に関する教育・相談活動**ができる。
5. がん患者を取り巻く**医療提供システム内を調整**することができる。
6. がん患者の人権を擁護するために適切な**倫理的判断を行い、判断に基づいた態度と行動**をとることができる。
7. がん看護に関する専門的な知識や技術を深めるための**研究を積極的に実施**することができる。

共通能力	内容
実践	個人・家族または集団に対してケアとキュアを融合した高度な看護を実践する
教育	看護職者に対しケアを向上させるため教育的機能を果たす
相談	看護職者を含むケア提供者に対してコンサルテーションを行う
調整	必要なケアが円滑に提供されるために、保健医療福祉に携わる人々との間のコーディネーションを行う
研究	専門知識・技術の向上や開発を図るために実践の場における研究活動を行う
倫理調整	倫理的な問題・葛藤について関係者間での倫理的調整を行う

がん看護専門看護師は、高度な看護実践を行うために看護系大学院修士課程での単位取得が必要

専門看護師の更新審査について

【目的】

認定更新は、専門看護師のレベル保持のため、5年ごとに実施するものである

【認定更新の位置づけ】

認定時もしくは前回更新時より、現在に至るまでの5年間における看護実績、研修実績及び研究実績等について書類審査を実施し可否を判定する。

■更新審査受験資格について

1. 日本国の看護師の免許を有すること
2. 申請時において、専門看護師であること
3. 申請時において、過去5年間に規定された看護実績、研修業績及び研究業績※を有していること

※看護実績、研修業績及び研究業績とは

看護実績	看護実績時間が2,000時間以上に達していること
研究・研修業績	研修実績及び研究実績等が合わせて100点以上であること (詳細は次ページ一覧表を参照)

出典; 日本看護協会HP 第12回 専門看護師(CNS)の「認定更新の手引き」
<http://nintei.nurse.or.jp/nursing/wp-content/uploads/2012/09/cns-tebiki-koshin.pdf>

専門看護師の研修実績および研究業績等申告表一覧

大項目	中項目	小項目	点数/件
研修・研究 の区分	項目	内容	
研修	社会活動等	所属施設外の現任者及び一般市民への指導、マスコミ等での普及活動	10
	講師等	専門看護師教育課程における非常勤講師	5
		認定看護師教育課程における非常勤講師・委員	
		看護基礎教育における非常勤講師	
		日本専門看護師協議会における委員等	
		学会の代議員、論文選考委員、査読員等	
	研修プログラム等への参加①	専門看護分野に関する最新の情報・知識・技術の修得のための研修プログラムへの参加	2
	研修プログラム等への参加②	専門看護師事例検討会等の専門看護師および専門看護師教育課程修了者を対象とした研修プログラムへの参加	4
研究	学会発表	一般参加	3
		研究発表、筆頭者	10
	学会講演等	研究発表、共同研究者	5
		特別・基調講演の講師、シンポジスト等	10
		学会長	15
		座長	5
	研究会発表	研究発表 筆頭者	6
		研究発表 共同研究者	4
	論文発表・専門誌等の執筆	論文 筆頭執筆者	10
		論文 共著者	5
		教科書等書籍の編者、執筆	5

※5年間の合計が100点以上であること。※研修50点、研究50点以上であることが望ましい

出典;日本看護協会HP 専門看護師の更新審査 <http://nintei.nurse.or.jp/nursing/wp-content/uploads/2012/09/sanko-1.pdf>

外来化学療法センターにおけるがん看護専門看護師の活動の実際

実践

- 治療を受ける意思決定に関する支援
患者が治療に伴う、強い不安や恐れ、迷い、混乱を整理し治療を選択できるよう情報提供、相談支援を行う
- 副作用のマネジメント/ 血管炎や悪心・嘔吐などの副作用の症状コントロールの助言、医師との相談
- 家族ケア/家族の不安や混乱への対応、相談支援

教育

- 院内・院外での教育活動
例) センターのスタッフ教育、がん化学療法CNの教育、学生指導、他職種・患者・家族向けの講義
学会や大学院での講義、市民公開講座などでの講演

相談

- 看護師、心理療法士、MSW、医師、薬剤師、CRC、患者、家族からのさまざまな相談
例) 新しい治療の投与方法やケアの注意点、抗がん剤の被爆対策、副作用の患者指導やスタッフ教育等
→ 相談者が将来同じような事例に出会った時に、自分の力で問題解決ができるよう教育的に相談対応

調整

- 患者からの苦情(例)待ち時間が長いを調査し問題解決を図った
- 新しい治療法導入によるインシデント報告を分析しマニュアルを作成
- 副作用のマネジメントに関する調整/ 予測性悪心・嘔吐が多いことに気づき、データを収集。精神腫瘍科医に相談し、統一して抗不安剤を使用した結果、症状緩和が図られた。

研究

- 院内スタッフの研究指導、学会発表支援
- 大学や他施設からの研究協力(共同研究など)

倫理

- 倫理的に問題のあるケースに対する調整看護師からの倫理的ジレンマへの相談
例) 治療の選択や実施に関する考え方や意見の相違、患者や家族の民間療法への過度の期待、緩和医療や入院治療への移行に関する考え方などの場面

外来化学療法センターのがん専門看護師は、専門的な知識と判断に基づく患者や家族の直接ケアのほか、看護師をはじめ他職種への教育や相談、調整活動などを通じて**化学療法のケア全体の質を向上させている**

がん化学療法看護認定看護師教育基準カリキュラム

カリキュラム総時間; 6か月・615時間以上

共通科目; 120時間(+選択30)、専門基礎・専門科目; 255時間、演習・実習; 240時間

(目的)

1. がん化学療法を受ける患者とその家族のQOL 向上に向けて、水準の高い看護を実践する能力を育成する。
2. がん化学療法看護分野の専門的知識と実践力を基盤として、他の看護職者に対して指導・相談ができる能力を育成する。

(期待される能力)

1. がん化学療法を受ける患者・家族の身体的・心理的・社会的・スピリチュアルな状況を包括的に理解し、専門性の高い看護を実践できる。
2. 薬物・レジメンの特性と管理の知識をもとに、投与管理、副作用対策を、安全かつ適正に責任をもって行うことができる。
3. がん化学療法を受ける患者・家族が、主体性を持って治療に向き合うためのセルフケア能力を高められるように、効果的な看護援助を行うことができる。
4. がん化学療法を受ける患者・家族の権利を擁護し、意思決定を尊重した看護を実践できる。
5. より質の高い医療を推進するため、他職種と共働し、チームの一員として役割を果たすことができる。
6. がん化学療法看護の実践を通して、役割モデルを示し、看護職者への指導・相談を行うことができる。

がん化学療法看護認定看護師は、専門的知識に基づく水準の高い看護実践、指導、相談能力を身につけるために、6カ月間615時間以上の講義・実習が求められる

認定看護師の更新審査について

【目的】

認定更新は、認定看護師のレベル保持のため、熟練した看護技術と知識を維持しているかを確認するため、5年ごとに実施するものである。

【認定更新の位置づけ】

認定時もしくは前回更新時より、現在に至るまでの5年間における、看護実践や自己研鑽の実績について書類審査を実施し可否を判定する。

■更新審査受験資格について

1. 日本国の看護師免許を有すること
2. 申請時において、認定看護師であること
3. 申請時において、過去5年間に看護実践と自己研鑽※の実績があること。

※看護実践、自己研鑽の実績とは

看護実績	看護実践時間が2,000時間以上に達していること
自己研鑽の実績	制度委員会で定めた学会及び研究会等への参加や発表、または雑誌発表等自己研鑽の実績が規定の内容で50点以上に達していること。（詳細は次ページ一覧表を参照）

出典；日本看護協会HP 第11回認定看護師(CN)「認定更新の手引き」

<http://nintei.nurse.or.jp/nursing/wp-content/uploads/2012/09/cn-tebiki-koshin.pdf>

認定看護師の研修実績および研究業績等申告表 項目一覧

種類	項目	内容	点数/件
実践活動等	実践活動(社会活動)	所属施設外の現任者及び一般市民への指導、社会活動等	10
	実践活動(社会活動)	認定看護師の実習指導	10
	専任教員	認定看護師教育課程の専任教員(当該分野に限る)	20
	非常勤講師	認定看護師教育としての講義、看護学生講義等	10
	院内研修指導	院内教育・研修プログラムの担当、指導	5
研修プログラムへの参加	研修プログラムへの参加①	認定看護分野に関する最新の情報・知識・技術の修得のための研修プログラムへの参加	2
	研修プログラムへの参加②	教育機関等が開催する認定看護師のみを対象とした研修プログラムへの参加	4
	研修プログラムへの参加③	認定看護師、専門看護師、看護管理者を対象とした研修プログラムへの参加	4
学会発表・参加*	発表	研究発表 筆頭者	10
		共同研究者	5
	参加	特別・基調講演の講師、シンポジスト等	10
		学会長	15
		座長	5
		一般参加	3
研究会発表・参加*	発表	研究発表 筆頭者	6
		共同研究者	4
	参加	一般参加	3
論文発表・執筆	論文発表・執筆	筆頭執筆者	10
		共著者	5

*「学会発表・参加」及び「研究会発表・参加」は「2012年度学会・研究会リスト」に登録されたものに限る

【リストの掲載学会・研究会】1. 国内学会 204学会 2. 国内研究会等 36研究会 3. 国際会議及び学術会議 49会議 (2012年度時点)

出典; 日本看護協会HP 認定看護師の更新審査 <http://nintei.nurse.or.jp/nursing/wp-content/uploads/2012/09/sanko1.pdf>

がん化学療法看護認定看護師は、患者や家族への直接ケア以外に
院内・外での指導や相談に応じ化学療法の質の向上を目指して活動している

がん化学療法看護認定看護師の活動の実際

実践

- 直接ケア
 - *患者及び家族の治療に関する意思決定の支援等
- 外来化学療法チームのチームリーダーとして、化学療法のプロトコル別に副作用の観察ポイントを整理し、看護記録用紙を整備
- 患者・家族の相談支援

指導

- 院内の新人看護師、がん看護専門研修者を対象とした講義
- 学習会を組織し運営
 - 例) 化学療法レジメンの理解を深める学習会など
- 外部研究会での講演や執筆活動

相談

- 病棟でのスタッフへの相談活動
 - *血管外漏出時の対処など
- 化学療法の投与管理や副作用対策等の相談支援

出典:がん専門病院における認定看護師の活動と組織支援:上田規子.看護展望,vol31(10),2006.9,p.31-38